抑うつとエフォートフル・コントロールの関係における 認知欲求による媒介効果

○西口雄基¹・高野慶輔²・丹野義彦¹

(¹ 東京大学大学院総合文化研究科・² 日本大学大学院文学研究科)

キーワード：抑うつ，エフォートフル・コントロール，認知欲求

Correlation between depression and effortful control is mediated by need for cognition.

Yuki NISHIGUCHI¹, Keisuke TAKANO² and Yoshihiko TANNO¹

(¹ Graduate School of Arts and Sciences, The University of Tokyo,

² Graduate School for Literature & Social Science, Nihon University)

Key Words: Depression, Effortful control, Need for cognition

目 的

これまでの抑うつ研究では、抑うつに伴う認知機能の低下が多く報告されている。中でも、注意をはじめとする実行機能の低下は近年の研究で数多く報告されている。

実行機能を表す概念のひとつに、エフォートフル・コントロール(Rothbart, Ahadi, & Evans, 2000; EC)がある。ECとは、実行注意の個人差を中心とした概念であり、思考や感情をモニタリングし、葛藤を解決する認知機能とされている。先行研究では、ECは抑うつと負に相関することが報告されている(山形・高橋・繁樹・大野・木島, 2005)。

しかしながら、ECと抑うつとの関係を調査した研究はいまだに数が少なく、先行研究にも問題が存在する。大きな問題として、動機付けの効果が無視されていることが挙げられる。多くの先行研究において抑うつ的な個人における動機付けの低下が報告されている。また、抑うつ的な個人における認知機能の低下は、動機付けの異常によってもたらされているとする報告もある。以上のような知見から、抑うつとECの負の相関は、動機付けの低下による媒介効果によって生じていることが予想される。しかしながら、抑うつとECの相関における動機づけの役割を検証した研究は未だに無い。

本研究ではECと抑うつとの関係における動機付けの効果を検証するために、認知欲求(Cacioppo & Petty, 1982)をモデルに組み込んだ。認知欲求とは、認知的努力を必要とする活動を楽しむ動機づけに強く関連したパーソナリティ特性である。本研究は、質問紙調査により、抑うつとECの相関における認知欲求の媒介効果の検証することを目的とした。

方 法

参加者 大学生 178 名(女性 131 名)を対象に、質問紙による調査を行った。参加者の平均年齢は 19.2 歳 ($SD = 0.8$ 歳)だった。

質問紙 自己評価式抑うつ尺度日本語版(SDS; 福田・小林, 1973), 成人用エフォートフル・コントロール尺度日本語版(ECS; 山形ら, 2005), 日本語版認知欲求尺度(NCS; 神山・藤原, 1991)の 3 つの質問紙を用いた。

結 果

Baron & Kenny (1986) の方法に従い、媒介分析を行った(Figure. 1)。回帰分析の結果、抑うつから認知欲求への有意な負の効果がみられた($\beta = -.29, p < .01$)。さらに、認知欲求と抑うつを独立変数とし、EC を従属変数とした重回帰分析を行ったところ、認知欲求から EC への有意な正の効果がみられ($\beta = .22, p < .01$)、抑うつから EC への有意な負の効果がみられた($\beta = -.48, p < .01$)。

抑うつが認知欲求を介して EC に与える間接効果の検定のために、Sobel 検定 (Sobel, 1982)を行った。間接効果とは、抑うつから認知欲求への回帰係数と認知欲求から EC への回帰係数を乗じたものである。検定の結果、間接効果は有意だった($z = 2.7, p < .01$)。

Figure. 1 認知欲求による抑うつから EC への効果の媒介

考 察

本研究では、抑うつと EC の関係における認知欲求の媒介効果を検討した。まず、回帰分析の結果、抑うつが認知欲求に負の影響を与えていることが示された。また、Baron & Kenny (1986)の基準に基づき重回帰分析を行った結果、媒介変数である認知欲求が結果変数である EC に有意な正の影響を与えていることが示された。ソベル検定の結果、抑うつが認知欲求を介して EC に影響する間接効果の有意性が示された。以上の結果から、仮説とした媒介モデル(Figure. 1)が支持されたといえる。同時に、抑うつから EC への直接効果も有意であることが示された。この直接効果は、ネガティブ情報など特定情報からの注意解放困難など、動機づけの影響を介さない抑うつ的な認知バイアスによるものかもしれない。

本研究では、抑うつ的な個人にみられる EC の低下は、抑うつから EC への直接的な効果だけでなく、認知欲求を介した間接効果も影響して生じるものであることが示唆された。

引用文献

- Rothbart, M. K., Ahadi, S. A., Evans, D. E., (2000). Temperament and personality: Origins and outcomes. *Journal of Personality and Social Psychology*, **78**, 122-135
- 山形・高橋・繁樹・大野・木島 (2005). 成人用エフォートフル・コントロール尺度日本語版の作成とその信頼性・妥当性の検討 パーソナリティ研究, **14**, 30-41
- Cacioppo, J. T., Petty, R. E. (1982). The need for cognition. *Journal of Personality and Social Psychology*, **42**, 116-131
- Baron, R. M., & Kenny, D. A. (1986). The moderator-mediator variable distinction in social psychological research: Conceptual, strategic, and statistical considerations. *Journal of Personality and Social Psychology*, **51**, 1173-1182
- 神山・藤原 (1991). 認知欲求尺度に関する基礎的研究 社会心理学研究, **6**, 184-192

福田一彦・小林重雄 (1973). 自己評価式抑うつ性尺度の研究 精神神経学雑誌, **75**, 673-679.